

Vision 2

予測困難な時代に求められる力を育む「実学」教育を通じた人材育成



「予測困難な時代」とも表現される新たな時代で活躍する人材を、本学のブランド価値である「実学」を通じて育成する。具体的には、優秀かつ多様な学生を日本内外から広く獲得し、社会のニーズに即した教育を提供することで、学生の主体的な学びと成長を促す。とりわけ、本学が複数キャンパスを擁するなかでも、学生が一体感を持ち、また、本学の伝統ある各学部の特色や強みを大学全体の力として発揮できるよう、全学的・学部横断的な教育機能の強化を重視し、「行動する知性（Knowledge into Action）」を備えた人材を育成する。

10年後に目指すべき姿

2026
→
2035

- ◆ 本学のポリシーに共感する優秀かつ多様な学生を世界から獲得できている
- ◆ 各学部での学びの基礎となる全学的教育プログラムが確立している
- ◆ 社会のニーズに合わせて柔軟に対応できる教育実施体制が整っている
- ◆ 各学部等の特色や資源（教員、施設設備等）を全学的見地から有効活用（共有）できている
- ◆ 学生が主体的に学び、自身の成長を実感できている
- ◆ エビデンスに基づく組織的な教育改善が日常的に行われている
- ◆ 本学の教育力の高さが社会で広く認知されている
- ◆ 大学院修了者が高度専門職業人として幅広いキャリアで活躍している
- ◆ 附属学校と大学との教育連携を通じて、建学の精神を体現する附属校生徒が育成されている

中長期戦略

戦略 2-1

現行の収容定員規模を前提とした
学生募集活動と入試制度改革

戦略 2-2

中大スタンダード教育の確立をはじめとした
学部横断型教育の充実

戦略 2-3

地域社会への教育機会提供の活性化に通じる
多分野融合教育の推進

戦略 2-4

社会のニーズに柔軟に対応した教育を実現する
ための実施体制の構築

戦略 2-5

DXを通じた教育改革と質保証

戦略 2-6

実現可能性を重視した多面的な国際化の展開

戦略 2-7

大学院教育を通じた「高度専門職業人」の育成

戦略 2-8

附属学校と大学との教育連携による
「行動する知性」を備えた人材育成

戦略 2-1

現行の収容定員規模を前提とした学生募集活動と入試制度改革

2023年時点で110万人となっている18歳人口は、2035年には約96万人、2040年には約74万人にまで減少すると推計されており、今後10年間で学生募集は更に困難性を増すものと予測される。他方、依然として東京をはじめとする大都市圏の大規模校における定員充足率は100%を超えており、また、いわゆる23区規制も継続している状況にある。それらに鑑み、伝統ある総合大学としての価値を追求する本学においては、当面、現行の収容定員規模を前提として、「質・能力・多様性」重視の学生募集活動と入試制度改革を行う。

中長期計画

受験生にわかりやすく、優秀層の受入れにつながる入試手法の発案

優秀な外国人留学生受入れのための制度充実

「首都圏におけるプレゼンス向上」と「全国型の堅持」を両立させうる学生募集活動の実施

戦略 2-2

中大スタンダード教育の確立をはじめとした学部横断型教育の充実

本学が複数キャンパスを擁する中でも、学生が中大生としての一体感を持てるよう、また各学部等における専門教育の一助となるよう、全学共通・学部横断的な基礎教育プログラムとしての「中大スタンダード教育」を確立する。いわゆるアカデミック・スキルの修得のみならず、自校教育等、本学の学生としてのアイデンティティ形成に資する内容も想定する。また、全学共通・学部横断的な教育の効率的かつ効果的な実施方法を追求し、現行の学部間共通科目（FLP、AI・データサイエンス教育等）の見直しを含め、全学的教育プログラムを再構築する。

中長期計画

全学的教育プログラムの見直し・再構築

中大スタンダード教育の開設

AI・データサイエンス科目の再体系化によるデジタル人材育成の強化

各学部教育課程における共通性の高い授業科目の全学横断的な開講形態への移行に向けた検討

複数キャンパスにおいて学部横断科目の履修を容易にする制度・仕組みの実現

戦略 2-3

地域社会への教育機会提供の活性化に通じる多分野融合教育の推進

地域との連携による当該地域の発展に資する貢献が大学に期待されていることに鑑み、本学が提供する教育機会に対する地域社会からのアクセスを確保するとともに、総合大学である多様なリソースを活かした教育活動を通じた地域連携・地域貢献を推進し、地域課題の解決に貢献する。

また、地域課題の解決に資するような多分野融合教育プログラムの開発・実践により、各学部の専門にとどまらない課題発見力と課題解決力を養う教育を推進する。

中長期計画

教育を通じた地域連携・地域貢献の推進

多分野融合的な教育プログラム（学位プログラム含む）の開発・実践

戦略 2-4

社会のニーズに柔軟に対応した教育を実現するための実施体制の構築

18歳人口の減少が進む中、今後の学校法人運営においては、これまで以上に社会のニーズを敏感に感じ取り、ニーズにマッチした教育課程を提供することで、優れた学生の獲得と人材育成が可能となる。現在の各学部における独自性に配慮しつつも、学部横断的な定員再配分や教育課程の再編が可能となるような教育実施体制（教教分離）の構築を進めていく。

中長期計画

学部・研究科・全学連携教育機構等の教育課程・プログラムに関する全学的なマネジメントを行う仕組みの導入

柔軟かつ効率的な教育課程・プログラム編成を可能とする教員組織体制の導入

教員の優れた教育活動を伸長するための方策の拡充

教育活動および教育の質保証における学生と教職員の協働体制の確立と推進

多様なエビデンスの常時収集ならびに点検・検討体制の構築によるIR機能の高度化

戦略 2-5

DXを通じた教育改革と質保証

学修ポートフォリオの活用等を通じて学修成果の可視化を推進し、エビデンスに基づく組織的な教育改革と学修者本位の学びを実現する。その際、高度ICTを最大限に活用することで、教育効果の最大化を図りつつ、新たなニーズにも応える教育プログラムの構築も目指す。また、可視化した学修成果を社会へ積極的に公表することで、本学の教育力に対する社会からの評価を高める。

中長期計画

教育・研究DXグランドデザインの策定およびDX推進に伴う業務体制、マネジメント体制の整備

高度ICTツールを活用した新たな教育手法の開発・支援の推進

統合情報システムの整備による教学IR機能の向上

戦略 2-6

実現可能性を重視した多面的な国際化の展開

海外留学生数の増加、外国人留学生の受入れ拡充・質的向上、「行動する知性（Knowledge into Action）」を体現できるグローバル人材の育成、海外協定校の実質化・海外拠点の活用、外国人教員等割合・外国語による授業割合の増加等、「本学の国際化の将来構想について－実現可能性を重視した多面的な国際化の展開－（Chuo Global-X）」で示された各施策を実施することにより、本学の教育の国際化を推進する。

中長期計画

海外留学者数を増加させるための施策パッケージの設計・運用

留学以外の手段によるグローバル人材育成と「内なる国際化」の進展

外国人留学生の受入れ拡充・質的向上

海外協定校の実質化・海外拠点の活用と高大連携の促進

教育研究の国際化に向けた外国人教員等の割合および外国語による授業数の適正化

戦略 2-7

大学院教育を通じた 「高度専門職業人」の育成

大学院において「次世代研究者挑戦的プログラム（SPRING）」と連動した改革を推進し、高度専門職業人の育成機能を強化するとともに、定員充足率の改善を図る。これらの改革を支えるため、本学が保有する研究教育リソースを柔軟に活用できる体制へと刷新し、研究指導体制を盤石なものとする。また、専門職大学院については、戦略経営研究科においてリカレント教育やリスキリングを目的とした社会人の受入れを一層強化する。更に、法科大学院では法学部との連携を深め、本学の伝統と実績を継承しながら、次代を切り拓く法曹養成に取り組む。

中長期計画

大学院体制の刷新

「高度専門職業人」育成のためのカリキュラム強化

「高度専門職業人」育成に向けたキャリア教育支援

法科大学院と法学部の教育連携強化と法曹養成連携機能の一層の充実

戦略 2-8

附属学校と大学との教育連携による 「行動する知性」を備えた人材育成

本学が設置するすべての教育研究機関が連携して総合的・計画的に教育研究活動を推進し、附属中学校・高等学校、大学、大学院を通じて一人ひとりの生徒・学生を「行動する知性（Knowledge into Action）」を備えた人材として育成し、社会に送りだしていく。

中長期計画

「中央大学と附属学校の教育連携プログラム」の充実と新規展開